

令和7年度大学入学共通テスト

試作問題『国語』

○ 掲載している試作問題

第A問（配点 20 点）

第B問（配点 20 点）

○ 作成の趣旨及び留意点

本試作問題は、「令和7年度大学入学共通テストの出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性」に基づき、令和7年度大学入学共通テスト『国語』に新たに追加する大問（近代以降の文章）について、具体的なイメージを共有するために作成・公表するものです。

本試作問題は、出題する問題の一例です。本試作問題と同じような内容、形式、配点等の問題が、令和7年度以降必ず出題されるものではありません。本番の試験問題の作成に当たっては、今後決定する「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」を踏まえて検討します。

本試作問題は専門家により作成されたものですが、過去の大学入試センター試験や大学入学共通テストと同様の問題作成や点検のプロセスを経たものではありません。また、本番の試験問題と異なり、A4サイズで作成しています。本番の試験問題は、適切な分量や体裁となるよう作成することとしています。

※ 本試作問題に関する説明は、「試作問題『国語』の概要」を御覧ください。

部である。これらを読んで、後の問い(問1、3)に答えよ。(配点 20)

【資料I】

文章 健康分野における、気候変動の影響について

①^{注1}気候変動による気温上昇は熱ストレスを増加させ、熱中症リスクや暑熱による死亡リスク、その他、呼吸器系疾患等の様々な疾患リスクを増加させる。特に、②暑熱に対して脆弱性^{ぜい}が高い高齢者を中心に、暑熱による^{注3}超過死亡が増加傾向にあることが報告されている。年によってばらつきはあるものの、熱中症による救急搬送人員・医療機関受診者数・熱中症死亡者数は増加傾向にある。

③^{注4}気温の上昇は感染症を媒介する節足動物の分布域・個体群密度・活動時期を変化させる。感染者の移動も相まって、国内での感染連鎖が発生することが危惧される。これまで侵入・定着がされていない北海道南部でもヒトスジシマカの生息が拡大する可能性や、日本脳炎ウイルスを媒介する外来性の蚊の鹿児島県以北への分布域拡大の可能性などが新たに指摘されている。

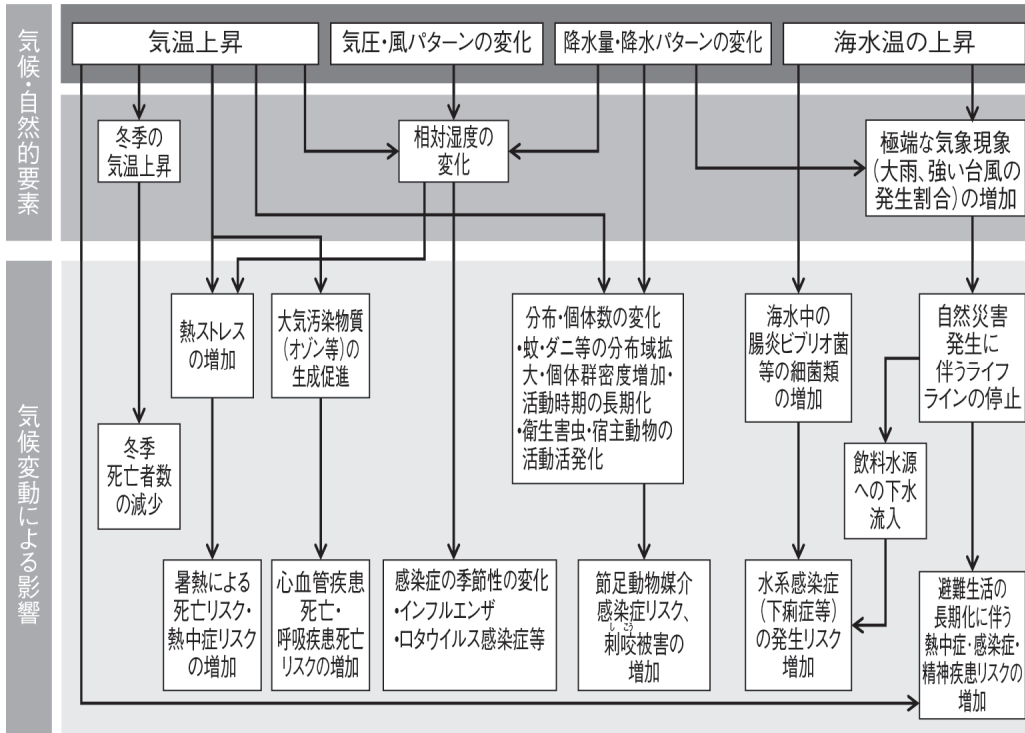
外気温の変化は、^{注5}水系・食品媒介性感染症やインフルエンザのような感染症類の流行パターンを変化させる。感染性胃腸炎やロタウイルス感染症、下痢症などの水系・食品媒介性感染症、インフルエンザや手足口病などの感染症類の発症リスク・流行パターンの変化が新たに報告されている。

猛暑や強い台風、大雨等の極端な気象現象の増加に伴い④自然災害が発生すれば、被災者の暑熱リスクや感染症リスク、精神疾患リスク等が増加する可能性がある。

2030年代までの短期的には、⑤温暖化に伴い光化学オキシダント・オゾン等の汚染物質の増加に伴う超過死亡者数が増加するが、それ以降は減少することが予測されている。

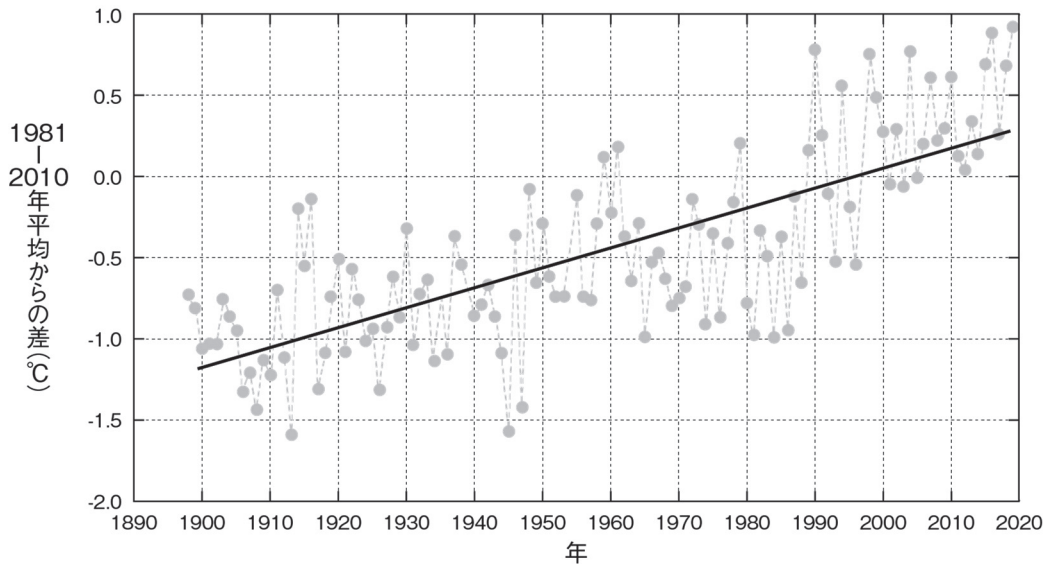
健康分野における、気候変動による健康面への影響の概略は、次の図に示すとおりである。

- (注) 1 熱ストレス……高温による健康影響の原因の総称。
 2 リスク……危険が生じる可能性や度合い。
 3 超過死亡……過去のデータから統計的に推定される死者数をどれだけ上回ったかを示す指標。
 4 感染症を媒介する節足動物……昆虫やダニ類など。
 5 水系・食品媒介性感染症……水、食品を介して発症する感染症。



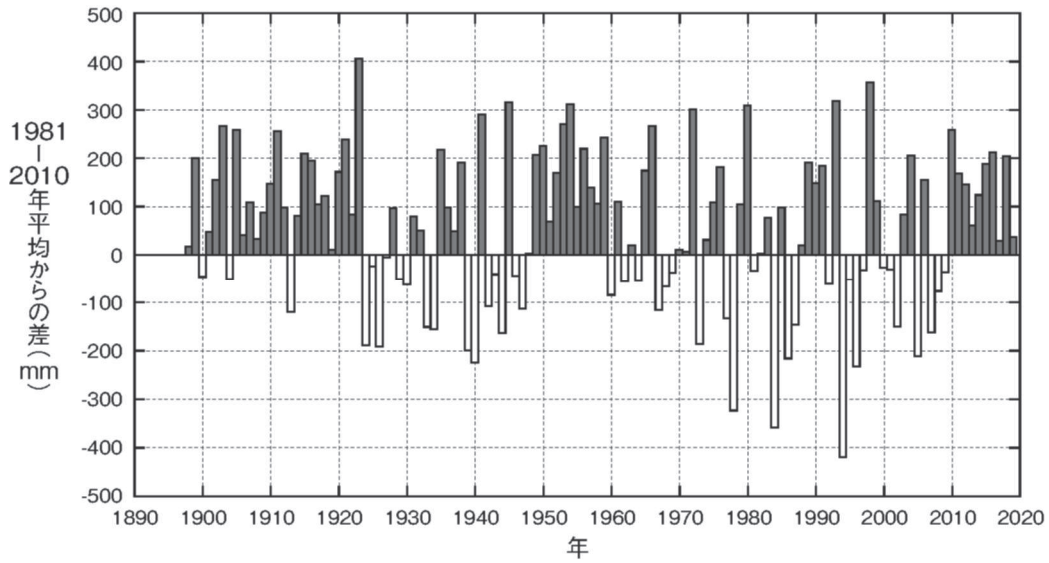
(文章と図)は、環境省「気候変動影響評価報告書 詳細 (令和2年12月)」をもとに作成

グラフ1 日本の年平均気温偏差の経年変化



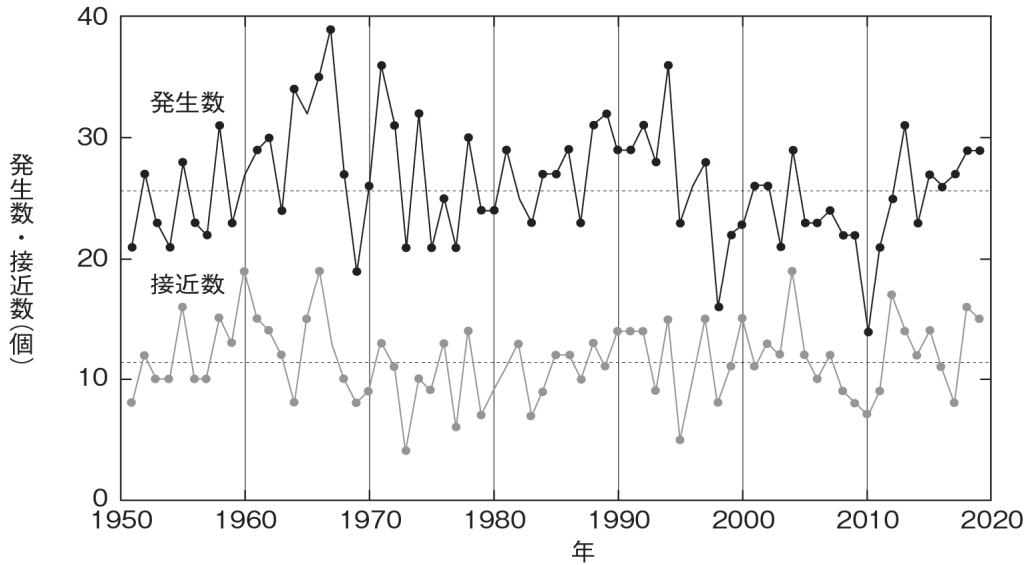
点線で結ばれた点は、国内15観測地点での年平均気温の基準値からの偏差を平均した値を示している。直線は長期変化傾向(この期間の平均的な変化傾向)を示している。基準値は1981~2010年の30年平均値。

グラフ2 日本の年降水量偏差の経年変化



棒グラフは気象庁の観測地点のうち、国内51地点での各年の年降水量の基準値からの偏差を平均した値を示している。0を基準値とし、上側の棒グラフは基準値と比べて多いことを、下側の棒グラフは基準値と比べて少ないことを示している。基準値は1981～2010年の30年間の平均値。

グラフ3 台風の発生数及び日本への接近数



点線は平年値(1950年～2020年の平均)を表す。

(**グラフ1**～**グラフ3**)は、気象庁「気候変動監視レポート 2019 (令和2年7月)」をもとに作成)

【資料Ⅱ】

地球温暖化の対策は、これまで原因となる温室効果ガスの排出を削減する「緩和策」を中心に進められてきた。しかし、世界が早急に緩和策に取り組んだとしても、地球温暖化の進行を完全に制御することはできないと考えられている。温暖化の影響と考えられる事象が世界各地で起こる中、その影響を抑えるためには、私たちの生活・行動様式の変容や防災への投資といった被害を回避、軽減するための「適応策」が求められる。例えば、環境省は熱中症予防情報サイトを設けて、私たちが日々の生活や街中で熱中症を予防するための様々な工夫や取り組みを紹介したり、保健活動にかかわる人向けの保健指導マニュアル「熱中症環境保健マニュアル」を公開したりしている。これも暑熱に対する適応策である。また、健康影響が生じた場合、現状の保健医療体制で住民の医療ニーズに応え、健康水準を保持できるのか、そのために不足しているリソース^{注1}があるとすれば何で、必要な施策は何かを特定することが望まれる。例えば、21世紀半ばに熱中症搬送者数が2倍以上となった場合、現行の救急搬送システム（救急隊員数、救急車の数等）ですべての熱中症患者を同じ水準で搬送可能なのか、受け入れる医療機関、病床、医療従事者は足りるのか、といった評価を行い、対策を立案していくことが今後求められる。また緩和策と健康増進を同時に進めるコベネフィット^{注2}を追求していくことも推奨される。例えば、自動車の代わりに自転車を使うことは、自動車から排出される温室効果ガスと大気汚染物質を減らし（緩和策）、自転車を漕ぐことで心肺機能が高まり健康増進につながる。肉食を減らし、野菜食を中心にすることは、家畜の飼育過程で糞尿^{ふん}などから大量に排出されるメタンガスなどの温室効果ガスを抑制すると同時に、健康増進につながる。こうしたコベネフィットを社会全体で追求していくことは、各セクターで縦割りにになりがちな適応策に横のつながりをもたらすことが期待される。

^{はしづめまきひろ}
(橋爪真弘「公衆衛生分野における気候変動の影響と適応策」による)

- (注) 1 リソース……資源。
2 コベネフィット……一つの活動が複数の利益につながること。
3 セクター……部門、部署。

問1【資料I】文章と図との関係について、次の(i)(ii)の問いに答えよ。

(i) 文章の下線部(a)～(e)の内容には、図では省略されているものが二つある。その二つの組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

1

- ① (b)と(e)
- ② (a)と(d)
- ③ (c)と(e)
- ④ (b)と(d)
- ⑤ (a)と(c)

(ii) 図の内容や表現の説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 2。

- ① 「気候変動による影響」として環境及び健康面への影響を整理して図示し、文章の内容を読み手が理解しやすいように工夫している。
- ② 気温上昇によって降水量・降水パターンの変化や海水温の上昇が起こるという因果関係を図示することによって、文章の内容を補足している。
- ③ 「気候・自然的要素」と「気候変動による影響」に分けて整理することで、どの要素がどのような影響を与えたかがわかるように提示している。
- ④ 「気候・自然的要素」が及ぼす「気候変動による影響」を図示することにより、特定の現象が複数の影響を生み出し得ることを示唆している。
- ⑤ 気候変動によって健康分野が受ける複雑な影響を読み手にわかりやすく伝えるために、いくつかの事象に限定して因果関係を図示している。

問2 次のア～エの各文は、ひかるさんが【資料Ⅰ】、【資料Ⅱ】を根拠としてまとめたものである。【凡例】に基づいて各文の内容の正誤を判断したとき、その組合せとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 3。

【凡例】

正 し い——述べられている内容は、正しい。

誤 っている——述べられている内容は、誤っている。

判断できない——述べられている内容の正誤について、【資料Ⅰ】、【資料Ⅱ】からは判断できない。

ア 気候変動による気温の上昇は、冬における死亡者数の減少につながる一方で、高齢者を中心に熱中症や呼吸器疾患など様々な健康リスクをもたらす。
イ 日本の年降水量の平均は一九〇一年から一九三〇年の三〇年間より一九八一年から二〇一〇年の三〇年間の方が多く、気候変動の一端がうかがえる。
ウ 台風の発生数が平年値よりも多い年は日本で真夏日・猛暑日となる日が多く、気温や海水温の上昇と台風の発生数は関連している可能性がある。
エ 地球温暖化に対して、温室効果ガスの排出削減を目指す緩和策だけでなく、被害を回避、軽減するための適応策や健康増進のための対策も必要である。

- ① ア 正しい イ 誤っている ウ 誤っている エ 判断できない
- ② ア 誤っている イ 判断できない ウ 誤っている エ 誤っている
- ③ ア 正しい イ 誤っている ウ 判断できない エ 正しい
- ④ ア 誤っている イ 正しい ウ 判断できない エ 正しい
- ⑤ ア 判断できない イ 正しい ウ 判断できない エ 誤っている

【目次】

テーマ：気候変動が健康に与える影響と対策

はじめに：テーマ設定の理由

第1章 気候変動が私たちの健康に与える影響

- a 暑熱による死亡リスクや様々な疾患リスクの増加
- b 感染症の発生リスクの増加
- c 自然災害の発生による被災者の健康リスクの増加

第2章 データによる気候変動の実態

- a 日本の年平均気温の経年変化
- b 日本の年降水量の経年変化
- c 台風の発生数及び日本への接近数

第3章 気候変動に対して健康のために取り組むべきこと

- a 生活や行動様式を変えること
- b 防災に対して投資すること
- c

X

- d コベネフィットを追求すること

おわりに：調査をふりかえって

参考文献

問3 気候変動が健康に影響を与えることを知り、高校生として何ができるか考えたひかるさんは、【資料Ⅰ】と【資料Ⅱ】を踏まえたレポートを書くことにした。次の【目次】は、ひかるさんがレポートの内容と構成を考えるために作成したものである。これを読んで、後の(i)(ii)の問いに答えよ。

(i) 【資料Ⅱ】を踏まえて、レポートの第3章の構成を考えたとき、【目次】の空欄 X に入る内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ

選べ。解答番号は 4。

- ① 熱中症予防情報サイトを設けて周知に努めること
- ② 保健活動にかかわる人向けのマニュアルを公開すること
- ③ 住民の医療ニーズに応えるために必要な施策を特定すること
- ④ 現行の救急搬送システムの改善点を明らかにすること
- ⑤ 縦割りにちな適応策に横のつながりをもたらすこと

(ii) ひかるさんは、級友に【目次】と【資料Ⅰ】【資料Ⅱ】を示してレポートの内容や構成を説明し、助言をもらった。助言の内容に誤りがあるものを、次の①

～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 5。

- ① Aさん テーマに掲げている「対策」という表現は、「健康を守るための対策」なのか、「気候変動を防ぐための対策」なのかわかりにくいから、そこが明確になるように表現すべきだと思うよ。
- ② Bさん 第1章のbの表現は、aやcの表現とそろえたほうがいいんじゃないかな。「大気汚染物質による感染症の発生リスクの増加」とすれば、発生の原因まで明確に示すことができると思うよ。
- ③ Cさん 気候変動と健康というテーマで論じるなら、気候変動に関するデータだけでなく、感染症や熱中症の発生状況の推移がわかるデータも提示できると、より根拠が明確になるんじゃないかな。
- ④ Dさん 第1章で、気候変動が健康に与えるリスクについて述べるんだよね。でも、その前提として気候変動が起きているデータを示すべきだから、第1章と第2章は入れ替えた方が、流れがよくなると思うよ。
- ⑤ Eさん 第1章から第3章は、調べてわかった事実や見つけた資料の内容の紹介だけで終わっているように見えるけど、それらに基づいたひかるさんなりの考察も書いてみたらどうだろう。

第B問

ヒロミさんは、日本語の独特な言葉遣いについて調べ、「言葉遣いへの自覚」という題で自分の考えを【レポート】にまとめた。【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】は、【レポート】に引用するためにアンケート結果や参考文献の一部を、見出しを付けて整理したものである。これらを読んで、後の問い（問1～4）に答えよ。（配点 20）

【レポート】

男女間の言葉遣いの違いは、どこにあるのだろうか。【資料Ⅰ】によると、男女の言葉遣いは同じでないと考えている人の割合は、七割以上いる。実際、「このバスに乗ればいいのよね？」は女の子の話し方として、「このカレライスうまいね！」は男の子の話し方として認識されている。これは、性差によって言葉遣いがはっきり分かれているという、日本語の特徴の反映ではないだろうか。

一方、Xにも着目すると、男女の言葉遣いの違いを認識しているものの、女性らしいとされていた言葉遣いがあまり用いられず、逆に男性らしいとされる言葉遣いをしている女性も少なからず存在することが分かる。

ここで、【資料Ⅱ】【資料Ⅲ】の「役割語」を参照したい。これらの資料によれば、言葉遣いの違いは性別によるとはかぎらない、そして、Yということである。

たしかに、マンガやアニメ、小説などのフィクションにおいて、このような役割語は、非常に発達している。役割語がなければ、「キャラクター」を描けないようにすら感じる。とくに、文字は映像と違って、顔は見えないし声も聞こえない。役割語が効率的にキャラクターを描き分けることによって、それぞれのイメージを読者に伝えることができる。その一方で、キャラクターのイメージがワンパターンに陥ってしまうこともある。

それでは、現実の世界ではどうだろうか。私たちの身近にある例を次にいくつか挙げてみよう。

Z

以上のように、私たちの周りには多くの役割語があふれている。したがって、役割語の性質を理解したうえで、フィクションとして楽しんだり、時と場所によって用いるかどうかを判断したりするなど、自らの言葉遣いについても自覚的でありたい。

【資料Ⅰ】 性別による言葉遣いの違い

調査期間 2008/11/23～2008/12/08

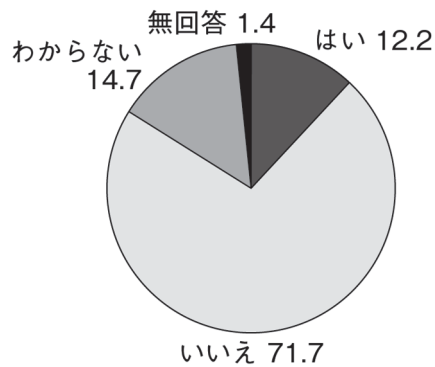
調査対象 小学生～高校生 10,930 人（男子 5,787 人、女子 5,107 人、無回答 36 人）

調査方法 任意で回答

単位 全て%

質問 1

男の子（人）が使うことばと、女の子（人）が使うことばは、同じだと思いますか？

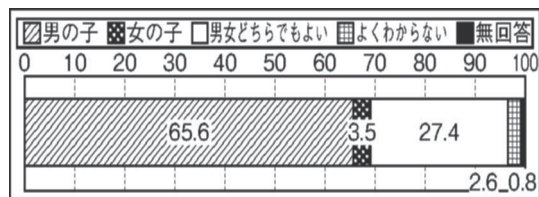
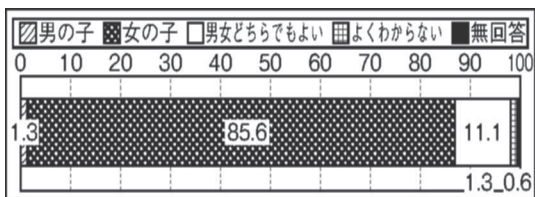


質問 2

① 次の各文は、男の子、女の子、どちらの話し方だと思いますか？

「このバスに乗ればいいのよね？」

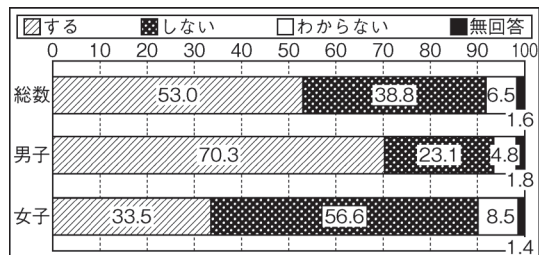
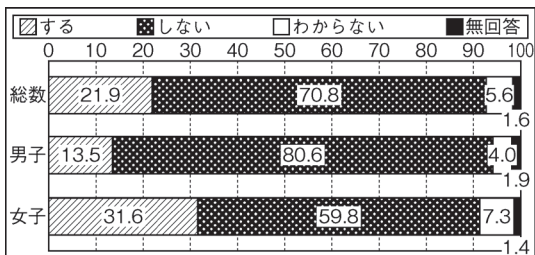
「このカレーライスうまいね！」



② 次のようなことばづかいはしますか？

「このバスに乗ればいいのよね？」

「このカレーライスうまいね！」



(旺文社「第6回ことばに関するアンケート」による)

【資料Ⅱ】 役割語の定義

役割語について、金水敏『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』（岩波書店、二〇〇三年、二〇五頁）では次のように定義している。

ある特定の言葉遣い（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができるとき、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。

すなわち、特定の話し方あるいは言葉遣いと特定の人物像（キャラクター）との心理的な連合であり、^{（注）}ステレオタイプの言語版であるとも言える。役割語の分かりやすい例として、次のようなものを挙げることができる。

- a おお、そうじゃ、わしが知っておるんじゃ。
- b あら、そうよ、わたくしが知っておりますわ。
- c うん、そうだよ、ぼくが知ってるよ。
- d んだ、んだ、おら知ってるだ。
- e そやそや、わしが知ってまっせー。
- f うむ、さよう、せっしやが存じておりまする。

上記の話し方はいずれも論理的な内容が同じであるが、想起させる話し手が異なる。例えば a は男性老人、b はお嬢様、c は男子、d は田舎もの、e は関西人、f は武士などの話し手が当てられるであろう。

^{きんすい}（金水敏「役割語と日本語教育」『日本語教育』第一五〇号による）

（注）ステレオタイプ——型にはまった画一的なイメージ。紋切り型。

【資料Ⅲ】 役割語の習得時期

多くの日本語話者は、「あら、すてきだわ」「おい、おれは行くぜ」のような言い方が女性や男性の話し方を想起させるという知識を共有している。しかし、現実の日常生活の中でこのようないかにも女性的、いかにも男性的というような表現は今日の日本ではやはりまれになっている。

日常的な音声言語に、語彙・語法的な特徴と性差に関する積極的な証拠が乏しいにもかかわらず、多くのネイティブの日本語話者は、「男ことば」と「女ことば」を正しく認識する。むしろこれは、絵本やテレビなどの作品の受容を通して知識を受け入れているのである。この点について考えるために、私が代表者を務める^(注)科研費の研究グループで、幼児の役割語認識の発達に関する予備的な実験調査を紹介しよう。図1として示すのは、その実験に用いたイラストである。

この図を被実験者の幼児に示し、さらに音声刺激として次のような文の読み上げを聞かせ、絵の人物を指し示させた。

- a おれは、この町が大好きだぜ。
- b あたしは、この町が大好きなのよ。
- c わしは、この町が大好きなんじゃ。
- d ぼくは、この町が大好きさ。
- e わたくしは、この町が大好きですわ。

その結果、三歳児では性差を含む役割語の認識が十分でなかったのに対し、五歳児ではほぼ完璧にできることが分かった(音声的な刺激を用いたので、語彙・語法的な指標と音声的な指標のどちらが効いていたかはこれからの検討課題である)。

幼児が、これらの人物像すべてに現実に出会うということはほとんど考えにくい。これに対して、幼児が日常的に触れる絵本やアニメ作品等には、役割語の例があふれている。



図1 役割語習得に関する実験刺激

(注) 科研費——科学研究費補助金の略。学術研究を進展させることを目的にする競争的資金。

(金水敏「役割語と日本語教育」『日本語教育』第一五〇号による)

問1 【レポート】の空欄 X には、【レポート】の展開を踏まえた【資料I】の説明が入る。その説明として最も適当なものを、次

の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 1。

① 「このバスに乗ればいいのよね？」を使わない女子は六割近くにのぼり、「このカレーライスうまいね！」を使わない男子は二割を超えていること

② 「このバスに乗ればいいのよね？」を使う女子は三割程度にとどまり、「このカレーライスうまいね！」を使う女子は三割を超えていること

③ 「このバスに乗ればいいのよね？」を使わない女子は六割近くにのぼり、「このカレーライスうまいね！」を使わない男女は四割近くにのぼること

④ 「このバスに乗ればいいのよね？」を使わない女子は六割近くにのぼり、「このカレーライスうまいね！」を使うか分からないという女子は一割程度にとどまっていること

⑤ 「このバスに乗ればいいのよね？」を使う女子は三割程度にとどまり、「このカレーライスうまいね！」を男女どちらが使ってもいいと考える人は三割近くにのぼること

問2

【レポート】の空欄

Y

には、【資料Ⅱ】及び【資料Ⅲ】の要約が入る。その要約として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

2

。

- ① イラストと音声刺激を用いた発達段階に関する調査によって、役割語の認識は、五歳でほぼ獲得されることが明らかになったが、それは絵本やアニメといった幼児向けのフィクションの影響である
- ② 役割語とは、特定の人物像を想起させたり特定の人物がいかにも使用しそうだと感じさせたりする語彙や言い回しなどの言葉遣いのことであり、日本語の言葉遣いの特徴を端的に示した概念である
- ③ 年齢や職業、性格といった話し手の人物像に関する情報と結びつけられた言葉遣いを役割語と呼び、私たちはそうした言葉遣いを幼児期から絵本やアニメ等の登場人物の話し方を通して学んでいる
- ④ 日本語話者であれば言葉遣いだけで特定の人物のイメージを思い浮かべることができるが、こうした特定のイメージが社会で広く共有されるに至ったステレオタイプとしての言語が役割語である
- ⑤ 特定の人物のイメージを喚起する役割語の力が非常に強いのは、幼児期からフィクションを通して刷り込まれているためであるが、成長の過程で理性的な判断によってそのイメージは変えられる

問3 【レポート】の空欄 Z には、役割語の例が入る。その例として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答

番号は 3。

- ① 家族や友だちに対してはくだけた言葉遣いで話すことが多い人が、他人の目を意識して、親密な人にも敬語を用いて話し方を変える場合が見受けられる。
- ② アニメやマンガ、映画の登場人物を真似るなどして、一般的に男性が用いる「僕」や「俺」などの一人称代名詞を用いる女性が見受けられる。
- ③ ふだん共通語を話す人が話す不自然な方言よりも、周りが方言を話す環境で育てられた人が話す自然な方言の方が好まれるという傾向が見受けられる。
- ④ 「ツッコミキャラ」、「天然キャラ」などの類型的な人物像が浸透し、場面に応じてそれらを使い分けるというコミュニケーションが
シヨンが見受けられる。
- ⑤ スポーツニュースで外国人男性選手の言葉が、「俺はくだけ」、「くさ」などと男性言葉をことさら強調して翻訳される場合が見受けられる。

問4

ヒロミさんは、【レポート】の主張をより理解してもらうためには論拠が不十分であることに気づき、補足しようと考えた。その内容として適当なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は

4

5

- ① 「今日は学校に行くの」という表現を例にして、日本語における役割語では語彙や語法より音声的な要素が重要であるため、文末のイントネーションによって男女どちらの言葉遣いにもなることを補足する。
- ② 英語の「I」に対応する日本語が「わたし」、「わたくし」、「おれ」、「ぼく」など多様に存在することを例示し、一人称代名詞の使い分けだけでも具体的な人物像を想起させることができることを補足する。
- ③ マンガやアニメなどに登場する武士や忍者が用いるとされる「〜でござる」という文末表現が江戸時代にはすでに使われていたことを指摘し、役割語の多くが江戸時代の言葉を反映していることを補足する。
- ④ 役割語と性別、年齢、仕事の種類、見た目などのイメージとがつながりやすいことを踏まえ、不用意に役割語を用いることは人間関係において個性を固定化してしまう可能性があるということも補足する。
- ⑤ 絵本やアニメなどの幼児向けの作品を通していつの間にか認識されるという役割語の習得過程とその影響力の大きさを示し、この時期の幼児教育には子どもの語彙を豊かにする可能性があるということも補足する。
- ⑥ 役割語であると認識されてはいても実際の場面ではあまり用いられないという役割語使用の実情をもとに、一人称代名詞や文末表現などの役割語の数が将来減少してしまう可能性があるということも補足する。